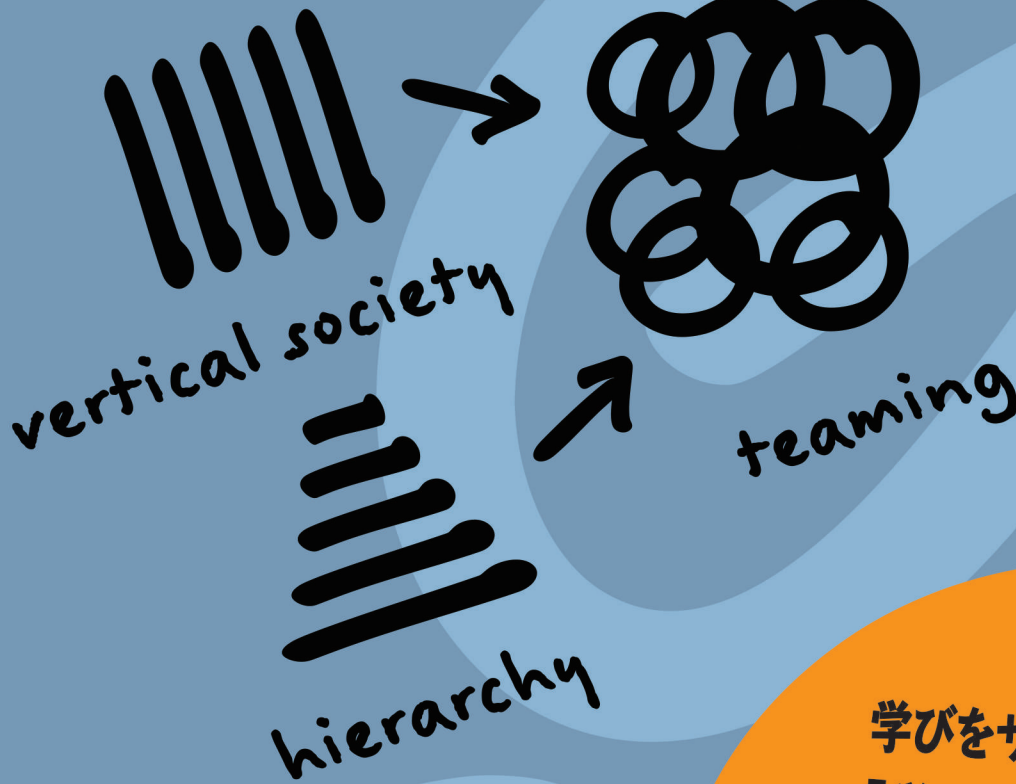




Graduate
Student
Assistant
Program

学びをサポートするチーム
「学びのコミュニティ」
メンバー求む！

学びを助ける活動や
人との関わりを通じた成長に期待する
GSA プログラム



「学びのコミュニティ」 は 新しい学びの場

GSA は「学びのコミュニティ」を作り出す大学院生

「学びのコミュニティ」は、メンバーがそれぞれの持つ知識や経験、アイディアを表現し対話し、それを組み合わせて結合することで新しい「知」を見出していく場です。

「GSA (Graduate Student Assistant: 大学院生アシスタント)」は、学びのコミュニティに加わり学びをサポートする中で、それを実現していきます。ひとりでは新しいものを生み出すことやそれを限りなく動かしていくことが困難であっても、チームとなれば可能になります。

学びをサポートするチームメンバーとなって動き始めてみませんか。

誰の中にも存在する 「GSA」としてのリーダーシップ

相互に意見や能力を引き出しあい、それを会話や文章、そしてビジュアルで伝え合う、またそれぞれの資質にふさわしい役割を見つけあい、小さな一言を増幅させ共振させていく、それが GSA としてのリーダーシップ。将来への予測が不可能な今日にあって、ひとりのリーダーに頼ることなく、個性あふれる多様なリーダーシップを持つメンバーで構成されるチームが、これからの時代を活性化させます。「GSA プログラム」は誰もが持っているそのリーダーシップを顕在化させていくでしょう。

GSA プログラムで、 人としての総合力、自分力をアップ

GSA プログラムでは、大学院生が基礎的なスキルを身につけた上で、自らの学びを学部生に還元するための授業科目と、学びのサポートの場を用意しました。GSA は、ファシリテーター、ピアレビューアーとして学部生の学びを手助けすることや、オンライン教材を開発し提供することで、人と関わり、自分の立ち位置を見つけていきます。循環する学びの中で自らの学びを深めていくことは、生涯に渡って自分が自分らしく生きることを支えてくれるでしょう。

GSA プログラム修了の証 GSA Certification

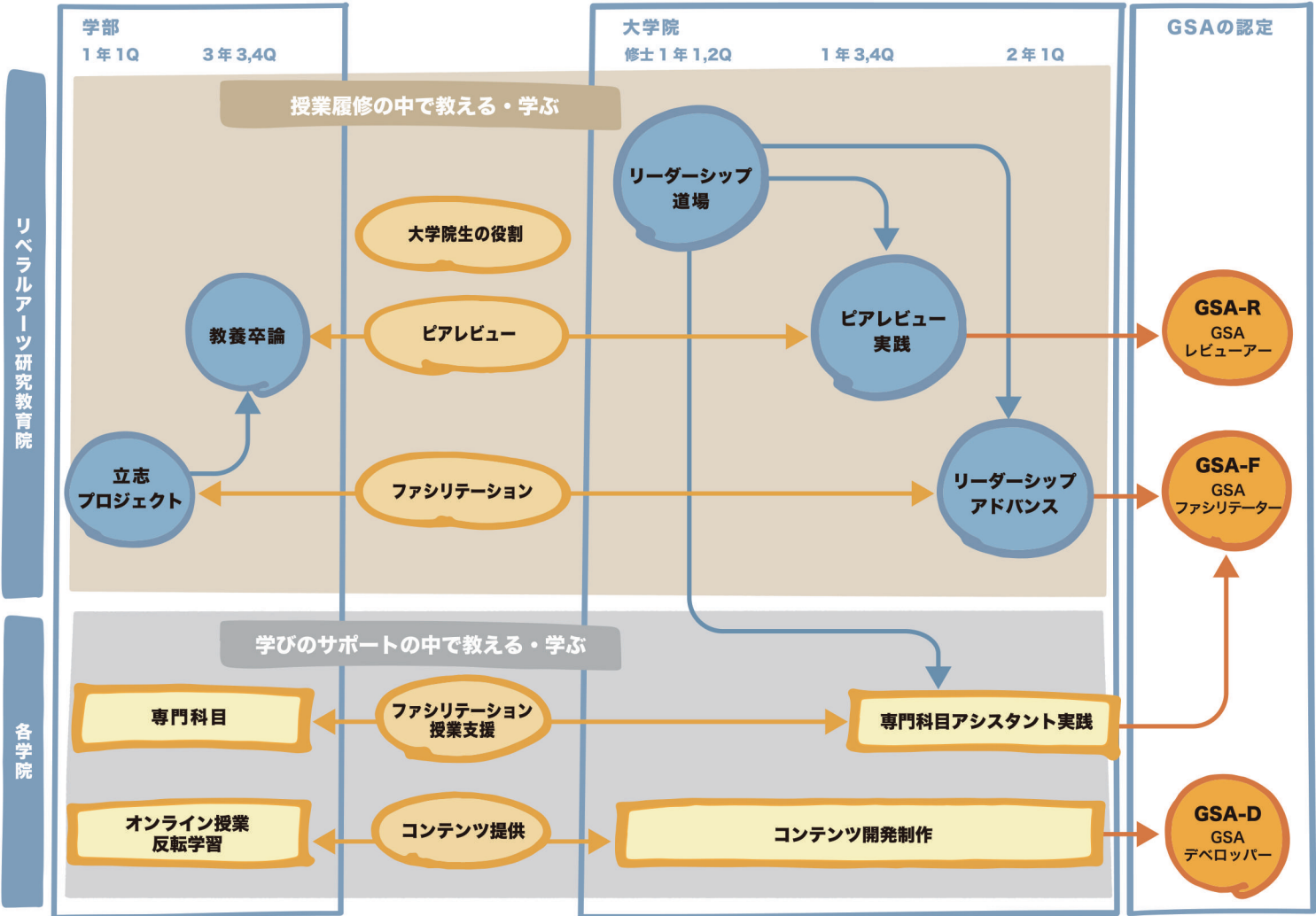
GSA プログラムを修了すると、東京工業大学教育革新センターより、新たに設けられた GSA Certification (認定証) が授与されます。認定証は、コースにあわせて、GSA レビューアー、GSA ファシリテーター、GSA デベロッパーの3種類。これは、学びのコミュニティのなかで GSA としての責務を果たした証です。GSA プログラムを通じて身につけた力で、自分の人生をどのように思い描くかはあなた次第。仲間と共に歩んでいきましょう。

学びのコミュニティ



GSAは3種類、それぞれの個性にあわせて取り組んでみよう

GSA Certification 認定の流れ



授業を履修し、修了時に認定を受けるものと、学びのサポートの場で学部生をサポートし、修了時に認定を受けるものがあります。

GSAの種類と履修科目

GSAの種類	習得能力	内容	履修に必要な科目等			
GSA レビューアー	GSA-R	●論理的な文章を書く力 ●文章力 読解力 表現力	「ピアレビュー実践」の授業として、学部3年生の「教養卒論」のピアレビューを行い、文章作成をサポートします。			
GSA ファシリテーター	GSA-F	●ファシリテート力 ●授業支援力 ●学習支援力	「リーダーシップアドバンス」の授業として「立志プロジェクト」の少人数クラスに出向します。ファシリテーターとして、ワークショップ形式の授業において受講生の学びをサポートします。			
			専門科目の授業に参画し、教員の授業運営ならびに受講生の学びをサポートします。受講生の主体的な学びを促すことを目指します。			
GSA デベロッパー	GSA-D	●コンテンツ制作スキル ●コーディネート力 ●コラボレーション力	オンライン授業等で利用する教材制作を教職員や他の学生と協働で行います。OJT、映像制作ワークショップ等の研修、オンライン授業用コンテンツの制作実務を通じて、教材制作スキルを身につけます。			

科目紹介 リベラルアーツ教育の基本となるコア学修科目。いずれもワークショップ形式の授業が主体

大学院科目	授業内容	年次	必須選択	単位	学部科目	授業内容	年次	必須選択	単位
リーダーシップ道場	GSAとなるための基礎科目。合意形成のためのワークショップ、ブレインストーミング、ジグソー法、ピアレビューなどを行い、新しいリーダーシップを身につけるための基本を学びます。	修士1年	選択	1	立志プロジェクト	ゲスト講師等による7回の講義講義(550人×2クラス)とワークショップ形式の少人数クラス(28人×40クラス)を交互に行います。講義講義内容を受けての課題(要約と応答)を少人数クラスのグループワーク(4人×7グループ)で話し合う中で、コミュニケーション力を身につけます。	学部1年	必修	2
ピアレビュー実践	学部3年生の「教養卒論」の授業に出向します。ワークショップ形式のグループに入り、学部3年生が書く「教養卒論」(A4、3ページ程度、2000文字程度)の内容や表現手法を、オンライン形式と対話形式のふたつの手法でレビューしながら、その作成をサポートします。	修士1年	選択	1	教養卒論	それまでに身につけた教養をベースとして、自分の専門分野と人間・社会・歴史・文化などとの関わりを考察し「教養卒論」の文章(A4、3ページ程度、2000文字程度)にまとめます。文章を書く力、互いにレビューしあう力を養います。	学部3年	必修	2
リーダーシップアドバンス	学部1年生の「立志プロジェクト」の授業に出向します。ファシリテーターとしてグループ内の発言を促したり、授業の一部分を受け持つなど、受身ではなく主体的に授業運営にかかわります。	修士2年	選択	1					

Program Leader

プログラムリーダー 室田真男教授からのメッセージ

「GSA の活動を通して自分の可能性を広げてほしいと思います」東京工業大学では、2016 年 4 月からスタートした教育改革において、様々な学びの改革を進めてきています。そのなかで GSA プログラムは、学部生、大学院生、教職員による「学びのコミュニティ」をつくり、相互に成長していくことを目指しています。

GSA に求められる力は、チームの中で学びをサポートするリーダーシップです。チームメンバーの良さを引き出しながら学びを深めていく取り組みにより、人との関わりの中で自らを活かすことができるようになります。これは、社会に出て行く上でとても重要な能力のひとつです。

そしてなにより、人の学びをサポートすること自体が、とても充実感があり楽しい活動です。

GSA プログラムに取組み、世界を広げてみませんか！

Q&A Questions and Answers

Q : ファシリテーション、ピアレビューという言葉を目にするのは初めてですが、どのようなことですか。

A : このような質問をしてくれる学生たちこそ GSA が待っているメンバーです。GSA でのファシリテーション、ピアレビューに加わって、それを経験し学びましょう。(facilitate は「促進する」、「容易にする」といった意味を語源に持つ言葉ですが、最近ではグループ運営などの場でもっと幅広く使われるようになってきました。peer は「同僚」、「仲間」という意味です。)

Q : GSA に向くのはどのようなタイプの人ですか。

A : どのような人でも GSA となる適性と可能性を持っています。学びのコミュニティは多様な能力や性格のメンバーから構成され、その中でそれぞれが自分たちの力を伸ばし、発揮していきます。

Q : GSA は学部生にとってどんな存在ですか。

A : 年齢が近いため、親しみやすく、適切な助言をもらえる先輩です。ロールモデルともなる存在です。

Q : 海外や他大学にも GSA がありますか。

A : カリフォルニア大学バークレー校、カリフォルニア工科大学等をはじめとして同様の仕組みがあります。日本で大規模に取り組むのは、東京工業大学が初めてです。

Q : 複数の GSA Certification の認定を受けることは出来ますか。

A : 出来ます。

Q : GSA Certification 認定の順番は決まっていますか。

A : 決まっていません。自由な順番で取ることが出来ます。

Q : GSA Certification は公的な資格ですか。

A : 国家資格のようなものではありません。東京工業大学教育革新センターが認定し、認定証 (GSA Certification) を授与するものです。

Q : 博士課程の学生も GSA になれますか。

A : 修士課程の学生を中心にプログラムが作られていますが、博士課程の学生も GSA として活動し、GSA Certification の認定を受けることが可能です。



●GSA 修了の認定書



●GSA の活動風景

東京工業大学

教育革新センター <http://www.citl.titech.ac.jp/>

リベラルアーツ研究教育院 <http://educ.titech.ac.jp/ila/>

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

2017 年 4 月 1 日発行

 Tokyo Institute of Technology ©2017 東京工業大学 教育革新センター

本プログラムは、文部科学省からの支援を受け、東京工業大学が推進する「教職員と学生ならびに学生間の協働による学びのコミュニティシステムの確立」の計画に基づくものです。